

1. 評価結果概要表

平成 19 年12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500894
法人名	医療法人 悠穰会
事業所名	グループホーム 向喜来の家
所在地	徳島県板野郡松茂町中喜来字群恵278番地の7 (電 話) 088-699-3855
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 24日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤11人, 非常勤10人, 常勤換算 二丁目8.5人三丁目8.5人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000~39,000 円	その他の経費(月額)	共益費9,000円・その他実費	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	7 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	芳川病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、病院を改修した3階建ての2・3階にあり、居室及び共用空間は広く、少人数で集える談話室も確保され、利用者の生活行動範囲の広がり配慮された造りとなっている。ホームが広く、利用者が見えにくい所もあるので、モニターで安全確認ができる。1階は、無償で地域のボランティア活動に提供し、ホーム利用者と活動を共にするなど、良好な交流が図られている。大学生、高校生の実習の受け入れ等、地域に根ざした運営に取り組んでいる。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、会議録やその他職員が周知すべき資料に、回覧印やサインによる確認が望まれていたが、改善されている。また、研修計画を作成し、習熟度や希望による研修を受講できるように奨励し、その内容を職員に報告した実施綴りもある。緊急時の対応マニュアルを用いて学習会を実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員間で何度も話し合いを繰り返し自己評価を作成している。その話し合いの過程を大切にケアの質の向上を図るようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、利用者、家族、地域包括支援センターの職員、老人会、民生委員、地域の同業者も参加している。グループホームの利用状況や活動案内を伝えると共に、地域の情報を知り、外出計画に反映している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「重要事項説明書」に行政機関やその他の苦情受付機関、グループホーム内の担当者も明記し、「意見箱」も置いてある。要望や意見があればすぐ対応している。県の苦情申し出のポスターも掲示されていた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の老人会に加入し、会員として地域の活動や行事に参加している。グループホームの1階を無償で地域のボランティア活動に提供し、ホーム利用者と活動を共にするなど、良好な交流が図られている。利用者と老人会は、一緒に食事づくりや手芸や園芸、習字をして相互に交流を深めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスが、今後のグループホームのあるべき姿と認識して「理念」を作成し、職員間でケアの指針となるように話し合い、玄関、食堂等のわかりやすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」を新人職員にも伝え、職員間で話し合い、地域の人達にも「クローバー通信」で広報している。玄関や管理室、グループホームの食堂等に掲げて、時々目に触れるようにしてケアの本質に立ち帰る指針にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの1階を無償で地域のボランティア活動に提供し、利用者が活動と共にしたり、老人会(つくしクラブ)に加入し、会員として活動している。町内の行事や運動会等に参加し、利用者と地域の方達との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で話し合い作成している。外部評価の改善点についても意見を出し合い、職員が連携して取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に1回開催し、グループホームの「クローバー通信」を配布して、現状や取り組み、行事等を出席者に伝え、家族の要望、町役場、民生委員、老人会の情報を聞き、互いに補完し合いながら利用者のケアの向上のために取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場に、月1回グループホームの利用状況を提出している。その他、困難な問題があれば、電話や訪問して現状を伝え、ホーム周辺の環境問題について要望書を提出したりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態に変化がある時は、すぐに家族に連絡している。月1回ホーム便り「クローバー通信」にて、家族に行事等の報告をしている。預かり金は、金庫に保管しており、出す職員を決めている。小遣いの使用状況も送っているが、家族のサインをもらっていない。	○	家族によっては、小遣い帳にサインはしなくてもいいという人もいるが、それ以外の家族には、面会時に説明してサインをもらう仕組みを検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、利用者、家族も参加してもらい意見、要望を聞いて改善に繋げている。「重要事項説明書」には行政機関やその他の苦情受付機関も明記し、意見箱を置き、グループホーム内の担当者も決めている。県の運営適正化委員会に苦情申し立てができるポスターも掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚による離職や派遣職員の異動はあるが、その他の異動はない。当日の勤務職員の顔写真と名前を書いた紙を管理室前に貼り出して、利用者や家族の不安を与えないように工夫をされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は、習熟度に応じ、希望も取り入れて年間研修計画を作成し実施をしている。ホーム内の学習会も行い、研修内容を職員間で共有し、回覧したサインもある。運営者は、研修に参加することを奨励し、資格取得者も多く資質の向上に務めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の職員と相互に運営推進会議に参加し、情報交換し、ケアについて意見を出し合い参考に行っている。グループホーム協会にも加入している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験的利用をすすめ、ホームの雰囲気や、室内の様子を知ってもらいながら、無理のないよう利用ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の希望を知り、過ごしてきた人生の知恵を教えもらったりしてできることを一緒にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の身体状況を知り、家族や利用者の思いを言動の中から知って対処している。利用者の希望で、近くの川でメダカすくいと一緒にして、ホーム内で飼育して楽しんだりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを月1回開催し、本人、家族の希望を聞き、職員、医療関係者の情報を収集し、介護計画を作成している。家族のサインもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期的な見直し、利用者の状態の変化による見直しができている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	連携病院が夜間でも対応してくれるので、利用者や家族の安心が得られている。また、利用者や家族の要望に応じて外出支援や通院の送迎など柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重してかかりつけ医を決めている。歯科はすぐ隣に協力医院がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りのマニュアルを作成している。入所当初から家族と話し合い同意文書も作成し、医師、職員、家族が連携して取り組む体制ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーの取り扱いは、「重要事項説明書」の中にも明記し、個人記録は鍵のかかる場所に保管している。利用者への声かけも自然で、尊厳を大切にするように心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	川で職員と一緒にメダカをすくって飼育したり、草花に水やりをする人もいます。地域の行事や遠出の行事も沢山計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食をグループホームで利用者と職員が調理をしている。昼食は協力病院で作ってもらっている。利用者、職員が同じ食卓で会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望すれば毎日入れる。嫌がる利用者には、足浴を勧めたりしている。入浴剤を入れ、しょうぶ湯、ラベンダーを入れて、季節感や香りを楽しむように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、できないことを把握し日常の中で洗濯たたみ、清掃、ゴミ出し、食事作りに参加してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの近くにはいろいろな店があり、一人で買物、散歩に行く人もいる。職員は、利用者のやりたい気持ちを尊重し、さりげなく同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けないようにしている。見えにくい所には、カメラを設置して安全性に配慮をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を年2回実施し、消火器の使い方を教えてもらっている。地震、水害時のマニュアルを作成し、すぐに対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を把握して健康状態に細心の注意をしている。管理栄養士による助言もある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花と野菜を植えている。共用空間には、畳があり、炬燵がある。廊下のコーナーには、テレビを置いたり、大きいゆったりしたソファや様々の形の椅子がありくつろげる。2階、3階にある部屋には、窓から明るい光が入り、眺めも良い。廊下に飾った絵画や造花、行事の写真が季節感を演出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が泊まったり、夫婦で利用できるような広い間取りの部屋もある。日当たりも良く展望も良い。利用者の好みで炬燵を置いたり、趣味の物や思い出の品々を飾って居心地のよいように工夫をしている。		